

日蓮大聖人御書全集

うえのどののははごぜんごへんじ

上野殿母御前御返事

ひやつかにちついぜん こと

（百箇日追善の事）

新版
1916
ゝ
1917

うえのどののははごぜんごへんじ ひやつかにちついでん こと

上野殿母御前御返事（百箇日追善の事）

こうあん ねん がつちゅうじゆん

弘安3年（'80）12月中旬 59歳 上野尼

こ めにこく いものかしらいち駄 こごろうどのひやつかにちとううんぬん

顰牙二石ならびに鵲鵲一だ。故五郎殿百箇日等云々。

ほけきよう だいしち い せんるこうが しようい なか うみ

法華経の第七に云わく「川流江河の諸水の中に、海はこ

だいいち ほけきよう とううんぬん

れ第一なり。この法華経もまたかくのごとし」等云々。こ

きようもん ほけきよう たいかい たと そうろう たいかい もう

の経文は、法華経をば大海に譬えられて候。大海と申す

深 はちまんよんせんゆじゆん ひろ

は、ふかきこと八万四千由旬、広きことまたかくのごとし。

たいかい なか 何々 住 そうろう もう そうら

この大海の中にはなににのすみ候と申し候えば、

あしゆらおう すうしけつ

阿修羅王（数紙欠）

じ ひやくせんまん じ 集

ほけきよう たま そうら

字、百千万の字あつまつて法華経ならせ給いて候えば、

たいかい たと そうろう たいかい いったい こうが しづく すくな

大海に譬えられて候。また大海の一滌は江河の滌と少

おな ぎ 遥 変 こうが

しくは同じといえども、その義はるかにかわれり。江河の

いったい いっすい いちう たいかい いったい してんげ みず

一滌はただ一水なり一雨なり、大海の一滌は四天下の水

集 いったい 作 いちが いったい ひと こがね

あつまつて一滌をつくれり。一河の一滌は一つの金のごと

たいかい いったい によいほうじゆ いちが いったい ひと

し、大海の一滌は如意宝珠のごとし。一河の一滌は一つの

味 たいかい いったい ごみ こうが いったい ひと

あじわい、大海の一滌は五味のあじわい。江河の一滌は一つ

くすり たいかい いったい まんしゆ いちがん

の薬なり、大海の一滌は万種の一丸のごとし。

なむあみだぶつ いちが いったい なんみようほうれんげきよう たいかい いったい

南無阿弥陀仏は一河の一滌、南無妙法蓮華経は大海の一滌。

あみだきよう　しょうが　いつ　滞　ほけきよう　いちじ　たいかい　いつ　こ

阿弥陀経は小河の一てい、法華経の一字は大海の一てい。故

ごろうどの　じゅうろくねん　あいだ　つみ　こうが　いつ　しゆゆ　あいだ

五郎殿の十六年が間の罪は江河の一てい、須臾の間の

なんみようほうれんげきよう　たいかい　いつ　とううんぬん

南無妙法蓮華経は大海の一てい等云々。

そ　おも　はな　蕾　咲　み　生　親　し

夫れ以んみれば、花はつぼみさいて菓なる。おやは死ん

こ　担　しだい　たと

で子になわる。これ次第なり。譬えは。